



ささゆり

発行 Vo. 10 令和4(2022)年2月2日

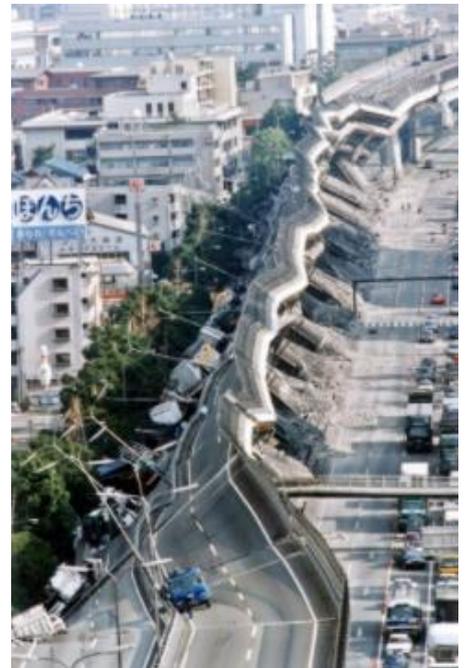
の前わかしり一の。節の変大まあの歳す。季冬のりも式のま。し、立節しな味儀分り。意味ののう誂。を意立へもよ誂いた。をき、春らすを追し息。と立か味を邪害れ無。る、冬意け、災らの。か立に、をだり、やえ。わちちめ日たやえ。節な。はのじ前にあ病ら食。がわのはに病ら食。季すの春えき国豆。は、ま年立迎ま中け。は目し新、を豆てだ。とりさがれ、春。し。2月分を目さ。す。と。2節変日りにたまつ数。

1・17 阪神・淡路大震災を知っていますか？

●今から27年前の1995年1月17日午前5時46分。淡路島北部の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3 震度7の兵庫県南部地震が発生しました。

●右の写真からもわかるように、兵庫県南部を中心に地震や火災による甚大な被害を受けました。駅のホーム、百貨店、大きなビル等が大きく壊れ、地震の影響で町中に火が燃え広がった地区もあります。道路・建物・公共交通機関・インフラが完全にストップし、6千人を超える人々がなくなりました。約31万人が避難所生活を余儀なくされ、閉鎖まで7か月もかかりました。

●近くの川西市・宝塚市・豊中市でも被害が出ました。能勢においても家屋や屋根のひび割れなど被害がありました。また、被災地から能勢に一時避難されるご家族もあり、学校でも疎開児童生徒の受入をしました。ご親戚や知人が被災された方もおられたかと思います。



全校 避難訓練 「お・は・し・も・て」の原則



●1月17日、小学校も中学校も一緒に学校全体で地震・火災の避難訓練をおこないました。「緊急地震速報!大きな揺れが予想されます。注意してください。」「揺れがおさまりましたが、給食室から火災が発生しました。」「先生の指示にしたがって、落ち着いて避難しましょう。」

●「押さない・走らない・しゃべらない・もどらない・低学年優先」(お・は・し・も・て)の原則を守り、〇〇に集合しなさい。

●今回は、全校で集まるのを避けるため運動場までの避難はせず廊下で集合しました。第一段階として小学校1年生から中学3年生(写真は中学3年生教室の様子)まで、自分の身を守る行動が素早くとれていたのはとても良かったです。今後、緊急時に自分がとるべき行動を想定しながら心の準備をしておきましょう。そして、冷静に行動できるように危機管理能力が備わるように「自分磨き」を続けてほしいと思います。

●学校にいるときは、授業中、休み時間、トイレ中、給食中等いろいろな時間帯が想定されます。家にいるときも就寝中、お風呂中、食事準備中等いろいろな時間帯を想定して、いざという時の動きを考え、ご家族の方々と相談をしましょう。

【おにぎりプロジェクト・巻きずしプロジェクト】

27年前。校長先生は久佐々小学校5年生を担任していました。近くの田んぼを借りて「米づくり」をしていたので、子どもたちと相談して「おにぎりを作って被災地に能勢のご飯を届けよう」というプロジェクトを行いました。5年生が握ったおにぎりは1000個を越えました。当時の教職員で手分けして宝塚市すみれが丘小学校や伊丹市天神川小学校に避難されている方々に届けました。2回目は給食調理員さんの発案で「巻きずし」を作りました。当時、巻きずしの差し入れは珍しく大変被災者の方々に喜んでいただきました。子どもたちも自分たちが育てたお米が被災者の方々の役に立ってよかったと感じる子が多かったです。自分たちにできることを考え

4年生 道徳「ネコの手ボランティア」 自分たちにできることは？



●先日、4年生の道徳科の授業で「ネコの手ボランティア」（主題名：奉仕の気持ち、内容項目：勤労・公共の精神 学校だより裏ページに教材分転載しています）を学習して自分たちにできるボランティアは何だろうか？と考え合いました。

●1学期に4年生社会科では「自然災害からくらしを守る」という単元で地震からくらしを守るために自分たちでできることを考え、2学期に学習発表参観で「防災」について調べ発表しました。

●南海トラフ地震について報道されることが増えています。大人も子どもも一緒に考えて「いざというときにどう行動するか？」をご家庭でも話し合っておいてください。

冬休み元気広場 テーマは「防災」 煙道・消火・テント・防災食体験

●1月6日7日に本校の小学生対象、子どもの居場所づくり「冬休み元気広場」（主催：能勢町福祉部・能勢町教育委員会）が本校の駐車場、校舎内でおこなわれました。講師は、豊中市北消防署能勢町分署の皆さんと学校ボランティアの方々でした。大変お世話になりました。

●右写真の黄色のテント内に煙が充満する仕掛けになっています。実際の火事を想定し、建物の煙の中を歩く「煙道体験」をおこないました。ハンカチか服の袖で口をふさぎ、低い姿勢で歩かないと出口にはたどり着けません。5mほどの短い煙道でしたが、出口にたどり着くまで相当長く感じました。



●続いて、水消火器訓練です。「火事だ！」声を出し、まず、大人とペアになって消火器のノズルのピンを抜きます。ホースの先を持ち、ねらいを定めてレバー強く握り、水が出始めたら火の根元を目標けて手前から放水を続けます。実際の消火器からは粉末や液体がたくさん出ますが、家庭用は10秒から20秒でしっかり火元を確認して、火の根元をねらって噴射しないと火を消すことができません。

●最後は、学校に保管している防災用のテントを張る体験です。いざという時のために、学校には数多くの防災用テントを備蓄しています。ワンタッチでテントを張ることができ、コツさえ覚えれば、簡単に折りたたむこともできます。2人1組になってテント内で防災食カレーとバナナをも食べました。貴重な体験ができました。学校でも今回の取組を参考に次年度へつなげていきます。



保護者のみなさまへ

- 新学期に入り、日本全国で新型コロナウイルス感染が急拡大し、保健所による調査方法が変わりました。濃厚接触者の待機期間も14日から10日へ変更され、直近では7日（状況により）に変更されました。
- 学校では、保健所と学校医と教育委員会と連携して感染拡大防止に向けた新しい基準を適用し、日々、かつて経験のない新しい業務に奔走しています。

- 陽性者・濃厚接触者・本人や家族の体調が心配な家庭等への学習支援、個別対応等を行いながら、全校児童生徒の学力保障の取組を展開しています。ご不便をおかけすることも多いかと存じますが、今しばらく、学校教育活動へのご理解とご協力、そして児童生徒への支援をよろしくお願い致します。ご心配事がありましたら、どんなことでも学校に気軽ににご相談ください。（学校長）

概要 地震発生時の大規模な地震により谷間の
 道路は崩れから交通を失い、道路の
 崩れは道路を崩壊させ、その下部の
 道路が崩壊をきたす。

能勢町の
 Xナンバー42
 中田 豊田
 王木 豊田

能勢町の防災新聞



避難場所を知ろう!!!

災害の時の避難場所

- 町施設
- じょうりニアター
 - 能勢町住民サービスセンター
 - 能勢町保健福祉センター
 - 旧歌工巨小学校体育館
 - 旧田尻小学校体育館
 - 旧位々小学校体育館
 - 旧天王小学校体育館
 - 能勢保育所
 - 能勢小学校
 - 能勢中学校
 - まとおか防災コミュニティセンター
 - 能勢町やく場



避難所
 避難所
 避難所



知ること、が、命、災、り、能、
 し、助、ど、を、害、ま、勢、
 て、よ、こ、を、が、す、が、町、
 白、に、る、が、ろ、し、起、で、
 分、生、命、の、時、な、こ、な、は、
 た、ま、が、ひ、の、り、の、ま、ま、
 の、れ、え、場、め、し、す、大、雨、に、
 の、ま、所、に、ま、う、山、が、山、
 命、る、ま、が、何、を、人、に、ふ、い、
 を、よ、す、よ、を、人、が、速、と、
 く、に、み、く、す、が、い、い、と、
 う、み、ん、知、あ、い、い、と、
 た、ん、な、ば、ま、人、土、ば、
 の、な、が、とい、す、で、し、い、
 に、で、い、く、い、も、あ、

災害が起きるかわかりません

命、そ、の、か、の、ま、災、能、
 せん、が、う、意、る、た、せ、害、勢、
 。、助、す、し、よ、め、ん、が、町、
 X、が、る、き、う、に、。、起、で、
 る、こ、も、に、今、な、き、は、
 が、と、し、大、災、の、ま、い、つ、
 備、も、で、ま、切、害、で、が、分、ど、
 は、し、し、な、が、の、か、こ、
 下、れ、つ、ま、の、う、備、助、時、り、
 下、す、ま、の、う、備、助、時、り、

能勢町の防災準備はできていますか？

普段の準備意識が大切です

- 非常時のためにしっかりとおくべき物のリストがあります
- 飲料水 (1人1日2リットル) □非常食 □常備薬
- 財布 □身分証明書 □健康保険証 □携帯電話 □現金
- 軍手 □ポケットティッシュ □歯ブラシ □マスク □消毒液 □モバイルバッテリー
- 運動靴 □イットヤパー □懐中電灯 □現金 □現金 □現金 □現金
- ボリ袋 (大) □軍手

まとめ
 私たちはいくつの人たちから助けをえました。その人たちは今
 地震がおきても大丈夫のようにじんぎをいっていると言っていました。
 私たちは、助けた事をまねしようと思えています。

ラジオ

非常食

水

救急箱

貴重品

その他

懐中電灯

●4年生が社会科・総合的な学習で作成した壁新聞「能勢防災新聞」(4-1、4-2)。能勢町のことが大変よくわかります。能勢町から各家庭に配布されている防災マップとともに、家庭でも地域でも情報交換しながら防災について考えるときの参考にしてください。(4年生の許可を得て、掲載しています。)



139

「ねえ、由美ちゃん、うちらもてつたおうよ。」
 「けど……、子どもがよけいなことせんでええって言われるんやない？」
 「そんなこと言ったかて、先生ら、えらい大変そうやもん。」
 「そうやね。よし、やろう。」
 由美子さんも立ち上がった。
 「先生、うちらもてつたうわ。」
 食パンを配っていた木村先生は、二人の顔を見るなりニコツとした。
 「へえ、てつとうてくれる。助かるわあ。もうネコの手も借りたいって、このことやもん。」
 ひたいのあせをふきながら、先生はふーっと息をはいた。
 「ネコの手え？ ネコの手を借りるって、どないして借りるんやろ？」
 侘加さんは、ちよつと首をかしげたが、すぐに由美子さんと配給係に変身した。
 最初の夕食は、食パンとちくわ、それにかまぼこだった。
 「家族の人数分だけわたくしてね。ああ、食パンはね、一人にまいじゃなくて半分やよ。数が足りへんからね。」
 いつもはやさしい口調の木村先生が、少し強い調子で言った。



138

28
 ……
 ネコの手ボランティア

阪神、淡路大震災を知っていますか。

ほつしの記憶

大地震のひびきあつた体育館で、おれに聞いている先生を見て、侘加さんと由美子は立ち上がった。

一九九五（平成七）年一月十七日の明け方、阪神地区、淡路島を中心に、大地震が発生した。ひじょうに大きなゆれにより、建物や道路がくずれ、また、火事も発生し、多くのひがひ者が出た。

ひなん所での生活は、食べ物や水などが不足していたうえに、寒いなかで病気になる人、なれない生活や家族を失ったショックで心を病む人が続出するなど、それはきびしいものだった。

ひなん所となったこの体育館に、大地しんから最初の夜がやってきた。すしづめになつた人たちに、ようやくとどいた夕食が配られはじめた。

「あれえ、あの配っている女の、大内先生やない？」
 体育館のおくの方にひなんしていた侘加さんが、おどろいたように声をあげた。
 「ほんまや、大内先生や。侘ちゃん、見てみい。うちらの木村先生もや。」
 となりにいた由美子さんも、びつくりしている。
 二人は同じクラスの仲よした。
 「けど、こんなにおおぜいの人がおるんやろ、たいへんやなあ。」



140

考えてみよう

三か月たっても四人がボランティアを続けていたのは、どのような思いからかな。

あなたができるボランティアは何だろうか。

見つめよう
 生かそう

も休みなく続いた。

雨上がりの空に、校庭のさくらが美しい。新しい学年が始まった。地しんがあつてから、まもなく三か月になる。学校へひなんしている人たちは少なくなったが、残っている人のなかには、お年よりが多かった。

ネコの手ボランティアの仕事も、前のように目が回るほどのいそがしさではなくなったが、四人はまだまだがんばるつもりだ。

「ねえ、おばあさんやおじいさんたちに、クッキー作ってあげへんか。」
 侘加さんが言いだした。四人がクッキー作りにチャレンジしている部屋のまどから、春の日ざしがやわらかくさしこんでいた。



140

次々に配って作業が終わったとき、ひたいからあせがふき出していた。
 「いやあ、助かったわ、ありがどうね。パニックになるとこやった。」
 木村先生は、また、やさしい口調にもどっていた。
 「先生、あしたから、うちらもがんばるから、なんでも言うてね。」
 「へえ、ほんまに？」
 「そう、うちらあ、ボランティアやりたかつたんやわ。」
 侘加さんと由美子さんの明るい声に、木村先生は、まぶしそうな目をした。
 三日後には、二人のかつやくを見て、智江さんと由佳さんも仲間に加わった。たのしい女の子四人のネコの手ボランティアグループのたんじょうだった。

地しんから一週間ほどして、侘加さんたち四人はそれぞれ、自分の家にもどることができたが、それから、毎朝、八時には学校へやって来た。

四人のボランティア活動は、朝の水くみに始まって、朝食配り、物の運ばん、昼食配り、電話のよび出し、トイレのそうじ、そして、夕食配りと、来る日も来る日も

●教材文：「ネコの手ボランティア」
 出典：4年生 小学 道徳「生きる力」（日本文教出版）P138～P141 ご一読ください。